

理学療法学科の先生からのおすすめ図書紹介

石田 和人 先生

書 名	著者名	出版社	ページ数
	請求記号		
日本国紀(上・下)	百田尚樹	幻冬舎	(上)402p (下)428p
	購入準備中		
先生からの推			
戦後の日本人は自国に誇りを持たず、自虐的な歴史観が広がっているが、本書は教科書では触れられない事実を通して、日本のために尽くした人々の姿を描いている。こうした歴史を知ること、日本への理解と誇りが芽生え、自分自身への自信につながる。歴史が苦手な人にも読みやすく、大学生にこそ勧めたい一冊です。			
大河の一滴	五木寛之	幻冬舎	294p
	購入準備中		
先生からの推			
医療や福祉など人と関わる仕事を目指す中で、「こうあるべきだ」という信念は正しく見えても、必ずしも唯一の正解ではないと気づかれます。たとえば食後に歯を磨くべきという考えも、その人にとって大切な時間を奪っているかもしれません。物事には表と裏があり、それに気づく感性が人を支える力につながります。真面目に頑張ってきた人にこそ、自分の価値観を見直すきっかけとして読んでほしい一冊です。			

岡田 誠 先生

理科系の作文技術	木下是雄	中央公論社	244p
	407/84		
先生からの推薦文 大学の課題にはレポート提出があります。これは高校時代にはあまりなかったと思います。皆さんは文章を書くのはどうですか？スマホの短文ならいくらでも・・・という学生さんは多いと思います。文章を書くにはルールがあります。本書ではそのルールについて詳細に書かれており、理科系学生（いわゆる文章にがて系）でも論理的で明快な文章が書けるポイントが記されています。私も前職の上司にこの本を勧められて、今でも論文作成などで見返す「パイブル本」になっています。			
まんがでわかる理科系の作文技術	木下是雄原作；久間月慧太郎 作画	中央公論新社	173p
	S4/22580		
先生からの推薦文 理科系の作文技術のマンガ版です。そもそも文章を読むのも苦手、という方はこちらから読んでみてください。その後、興味があれば原作もトライしてみてください。			
“内向型”のための雑談術：自分にムリせずラクに話せる51のルール	渡瀬謙	大和出版	217p
	S8/23686		
先生からの推薦文 理学療法士・作業療法士にとって、コミュニケーション能力は大きな武器です。なかなか会話が進まない、沈黙になりがちの方たちのためのノウハウ本です。自分にムリせずラクに話せるルールに実例をあげながら紹介してくれています。			
幸せになる勇気（自己啓発の源流「アドラー」の教え.2）	岸見一郎, 古賀史健	ダイヤモンド社	293p
	SI/15818		
先生からの推 複数の先生方から推薦されていた「嫌われる勇気」の続編です。「嫌われる勇気」では幸せになるための目標や行動原則を紹介しており、「幸せになる勇気」では具体的な実践方法が語られています。「嫌われる勇気」を読んだ方は是非、どうぞ。			

荻原 久佳 先生

20代を無難に生きるな	永松茂久	きずな出版	213p
	SI/22582		
先生からの推			
20歳前後の本学生に、大事なこの年代を生きるためのヒントになればと思い、推薦させていただきました。もしかしたら、似たような本があったかもしれませんが、読書の習慣もあまりなかったせいか、私が20代の時には、こんな本に出合っていませんでした。この本を当時読んでいれば、もっと凄い人に慣れていたかも!と後悔しています。読んでみて人それぞれ感じ方は違うと思いますが、本を繰り返し読むことの大切さに気付いていただければ、更に講義では、率先して手を挙げて発言できる人が増えて頂ければ幸いです。また、似たような本はたくさん出ていますので、同じような本を探して読んでみて、自分のお気に入りを見つけていただければ嬉しいです。			
本を読む人だけが手にするもの	藤原和博	筑摩書房	296p
	SO/22569		
これを読んだらもっと本が読みたくなる最強の読書論。厳選50冊も紹介。文庫版の特典、前田裕二のエッセイは必読。			
発達する脳老化する脳：子供からお年寄りまで賢い脳の育て方：タキタディプラザ開設3周年記念講演会より	瀧田資也編著	関東図書	220p
	(絶版のため入手不可)		
すぐれた脳を育てるためには?タキタディプラザ開設3周年記念講演会の内容をまとめて収録。			
図解眠れなくなるほど面白い脳の話	茂木健一郎	日本文芸社	127p
	S4/22475		
人体の中で最大の不思議といわれている脳。クオリア（感覚の持つ質感）をキーワードとして、脳と心の関係を研究する脳科学者・茂木健一郎。テレビや雑誌など、さまざまなメディアで活躍する著者が、脳のしくみから、脳の取り扱い方、AI時代における脳の未来まで、最新の知見と図解で脳のナゾをわかりやすく解説します。			
リハビリテーションのための脳・神経科学入門. 改訂第2版	森岡周	協同医書出版社	165p
	491.37/25		
これからのリハビリテーションは脳科学の進歩に連動してその理論と方法が激しく変化する。次世代型リハビリテーションの理論的根拠となる神経生理学や神経心理学の基礎研究から、リハビリテーションに関わりの深い知見を紹介。			

小野塚 實 先生

カラー図解人体の正常構造と機能 全10巻縮刷版. 改訂第3版	坂井建雄, 河原克雅総編集	日本医事新報社	879p
	491/2913		
先生からの推			
本書は臓器別に編集した全10巻のシリーズを一冊にまとめた縮刷版で、解剖学・生理学の高度な内容をやさしく学べる。第3版は、最新の知見に基づいて内容を更新するとともに、さらに読みやすく、わかりやすい。 本書は図解を中心として構成され、ひとつのテーマが見開きで完結でき、しかも、図解に沿ってマクロ・ミクロの構造が学べ、その構造がどのような機能を果たしているのか、そしてその構造や機能を支えている物質は何かを、順を追って学習できるよう編集されているので、読み進めていくうちに、各臓器の構造と機能のつながりが実感できる。			

加藤 芳司 先生

病院で死ぬということ	山崎章郎	文藝春秋	269p
	購入準備中		
先生からの推薦文			
医療法で「説明と同意」が明文化されて約30年が経ちます。それに先立ち1990年に発刊された作品であり、がん患者における終末期についての話となります。 死とどう向き合うかを考えるにあたり、現在、終末期医療に理学療法士が関わる事も増えた中で、その答えは簡単ではありません。がんのリハビリテーションとして、急性期医療や在宅（訪問リハビリテーション）の場面でチームの一員として携わる機会が卒業後もあります。 著書で語られる内容は現代においても一読すべき、古さを感じさせない作品です。			
医療におけるナラティブとエビデンス：対立から調和へ	斎藤清二	遠見書房	197p
	492/826		
先生からの推薦文			
医療においては科学的根拠に基づく治療・介入が求められ、理学療法、作業療法等のリハビリテーションにおいても「エビデンス Evidence」が重要視されています。しかしながら患者が抱える病のまわりに広がる様々な物語は一人、一人違うものです。「ナラティブ narrative(物語、語り口)」とは「患者（助けを求める人）の物語を聴取し、理解し、解釈すること」であり、「対話を通じた関係の中で適切に臨床判断を行い、行動する」ことを意味しています。科学的に解釈できなければ意味がないという考え方だけではなく、患者を人として捉え、個別的理解が大切であることも医療職を目指すにあたって学んでほしいと思っています。			
宇宙からの帰還、新版	立花隆	中央公論新社	403p
	S5/23709		
先生からの推薦文			
理学療法士は出産前から看取りまでの全ての人生プランに関わる事ができる職種と言えます。そこには生と死の意味、何のために人は生きているのか（生かされているのかもかもしれない）という精神世界の理解も医学の勉強と同時に必要かもしれません。命の意味を本書籍から理解できると幸いです。			
まずはここから!多職種連携	駒澤伸泰	中外医学社	86p
	S4/23752		
先生からの推薦文			
理学療法士の職域は医療分野に留まる事なく、想像以上に広く、様々な分野での活躍が期待されています。その中で共通するのが決して一人で取り組む仕事ではないという事です。お互いの不足している所を支え、助言を行う等、チームとして取り組む事が大切です。一昔前は職人気質が優位を占め、自分の技術で患者を治すという側面もありました。しかしながら現在は個々の技術を提供する事に変わりはありますが、多様な面からの援助が必要となっており、チーム連携が求められます。一読して理解を深めてほしいと思います。			
臨死体験(上・下)	立花隆	文藝春秋	(上)490p (下)526p
	(上)S1/23706, (下)S1/23707		
先生からの推薦文			
理学療法士はがん末期の患者に対してのターミナルケアに携わる事もあります。援助する全ての人が元気にさせられるわけではなく、満足した終末を迎えて頂く手助けも求められます。理学療法の技術を身につけると同時に死という人間が必ず迎える事に対する理解をこの本から学べると幸いです。 理学療法士になるためだけではなく、まずは人としてどう生きるのかの意味の参考になるかもしれません。			

瀬瀬 真之介 先生

1リトルの涙：難病と闘い続ける少女 亜也の日記	木藤亜也	幻冬舎	270p
	S9/21342		
先生からの推			
難病と闘う女性の闘病生活を描いた物語であり、ドラマ化もされています。脊髄小脳変性症に苦しみ、葛藤し、それでも病氣と闘いながら強く生きた姿にはとても感動します。病氣の方がどのように感じているのか、家族が何を思っているのかなどを感じ、医療者として何ができるのか、患者さんや家族とどのように向き合っていくと良いのか改めて考えさせられます。これから医療に携わる皆さんにも、疾患を見るだけではなく、患者さん本人や家族のことまで見られる医療者となって欲しいと思い推薦しました。			
臨床神経解剖学	M J Turlough FitzGeraldほか著；杉本哲夫ほか訳	医歯薬出版	432p
	491.1/83		
中枢神経系の構造と機能を豊富な図を配して統合的に解説し、機能的・臨床的な側面を詳説した実践神経科学のテキスト。アルツハイマーや脳腫瘍など、各疾患のコンセプトもつかめる。			
嫌われる勇氣(自己啓発の源流「アドラー」の教え:[1])	岸見一郎, 古賀史健著	ダイヤモンド社	294p
	S1/12396		
どうすれば人は幸せに生きることができるかという哲学的な問いに、きわめてシンプルかつ具体的な答えを提示する「アルフレッド・アドラーの思想(アドラー心理学)」について、青年と哲人の対話形式を用いてまとめる。			
リハに役立つ脳画像：コツさえわかればあなたも読める	大村優慈著；酒向正春監修	メジカルビュー社	189p
	493.73/156		
漠然と脳画像を見て曖昧な結論を出すのではなく、障害による症状や残存機能を予測するために有効なヒントを与えてくれる脳画像を最大限活用できるようになる1冊。			
ナースコール!：こちら蓮田市リハビリテーション病院	川上途行	ポプラ社	317p
	S9/21343		
埼玉県のリハビリテーション病院で働く玲子はやる気に欠ける看護師3年目。新しく赴任してきた若い医師小塚太一に、「リハビリってどんな意味?」と問いかけて答えられず――。医師と療法士と看護師と患者、チーム医療の中で成長していく玲子。現役医師が描く、爽やかで新しい医療小説!			

駒形 純也 先生

論理的文章作法：帰納法・演繹法・弁証法で書く	西田みどり	知玄舎	166p
	S8/22592		
先生からの推			
本書は、論理的に文章を書くにはどうすればよいかを解説しています。大学生になり、講義や実習等でレポートや報告書等を書く機会が増えるかと思えます。この本には、分かりやすく説得力のある文章を手早くスムーズに書くにはどうしたらよいか分かりやすく説明してあります。帰納法、演繹法などむずかしい言葉がでてきますが、図を使い文章の構造を示してあり、とても理解しやすくなっています。レポート作成に困ったら一度に手に取ってみてください。			
運動脳	アンデシュ・ハンセン著；御船由美子訳	サンマーク出版	366p
	S4/23704		
先生からの推			
本書は、有酸素運動が脳に及ぼす影響について詳しく解説しています。理学療法士は、運動に深く関わる仕事です。一般的に、運動により筋肉が増強され、心肺機能が向上することはよく知られています。しかし、この本によると、それだけではなく、運動は集中力や記憶力といった脳の機能の向上にも寄与するとのこと。この知見は、自分自身の体力向上や集中力の強化に役立つだけでなく、臨床現場での患者様への指導にも役立つかもしれません。			
スタンフォードの自分を変える教室	ケリー・マクゴニガル著；神崎朗子訳	大和書房	342p
	S1/7619		

心理学、神経科学、医学の各分野から自己コントロールに関する最新の見解をわかりやすく説明し、意志力を強化するためのさまざまな戦略を紹介。スタンフォード大学で「人生を変える」と評価された授業を書籍化。			
『学力』の経済学	中室牧子	ディスカヴァー・トゥエンティワン	199p
	S3/11816		
ゲームは子どもに悪影響？教育にはいつ投資すべき？ご褒美で釣るのっていけない？思い込みで語られてきた教育に、科学的根拠が決着をつける！			

玉木 徹 先生

まんが医学の歴史	茨木保	医学書院	356p
	S4/20658		
先生からの推			
医学は紆余曲折ありながらも人類の誕生とともに何世紀もかけ、その時代背景や文化を色濃く反映させながら発展してきました。その中には時代を代表する偉人、奇人の様々な人間ドラマが存在します。この本は、現代医学に欠かせない医学史の出来事を噛み砕き、まんが風に簡単に解説しているので、専門知識がなくても非常に読みやすい本です。日々進化する医学の歴史を知り、現代の医学への道のりを理解するとともに、未来の医学についても想像を膨らませてみてください。			
生きるぼくら	原田マハ	徳間書店	385p
	S9/12399		
いじめを受け、ひきこもりだった麻生人生。夢科でひとりぐらしを続ける人生の祖母、中村真朝。対人恐怖症の中村つばみ。田んぼから3人は前をむいて歩き始めた…。			
失敗の科学：失敗から学習する組織、学習できない組織	マシュー・サイド著； 有枝春訳	ディスカヴァー・トゥエンティワン	343p
	S1/23748		
オックスフォード大を首席で卒業した異才のジャーナリストが、医療業界、航空業界、グローバル企業、プロスポーツチーム…あらゆる業界を横断し、失敗の構造を解き明かす！			

内藤 紘一 先生

思考の整理学	外山滋比古	筑摩書房	223p
	S1/10006		
先生からの推 リハビリテーション専門職は、基礎医学や臨床医学の知識を基に患者さんの病態を把握し、適切なりハビリテーションを提供しなければなりません。親切の実践によって患者さんを笑顔にするためには、多くの知識を基に「考える力」が最も重要になります。本書はその考える力を養うためのヒントを多く与えてくれます。本書に書かれたことを、すべて鵜呑みにするのではなく、自分が取り入れられそうところを、自分なりにアレンジして取り入れてみると良いと思います。その方法が難しければ、教員に相談してみるもの良いでしょう。本書は、「考える」ということを考えるきっかけになり、その後の大学生活、社会生活を豊かにしてくれると思います。一度手に取ってご覧ください。			
日本語の作文技術 新版	本多勝一	朝日新聞出版	323p
	S8/13727		
修飾の順序、句読点のうちかた、助詞の使い方など、ちゃんとした日本語を書くための技術を本多勝一が解説する。世代を超えて、30年以上読み継がれてきた文章術のロングセラー。			
健康・医療の情報を読み解く：健康情報学への招待 第2版	中山健夫	丸善出版	201p
	498/1983		
生・老・病・死に向き合うとき、人間を支え、励ます情報・コミュニケーションとは何か？疫学やEBMの考え方をもとに、身近な事例の紹介を通じて健康や医療の情報の読み解き方をわかりやすく解説する。			
臨床の砦	夏川草介	小学館	206p
	S9/21335		

現役医師としてコロナ禍の最前線に立つ著者が自らの経験をもとにして克明に綴ったドキュメント小説。本書は、コロナ禍の最前線で多くの患者さんと向き合う著者が2020年末から21年2月にかけて経験したことを克明に綴った、現代版『ペスト』ともいえる記録小説です。			
身体活動・座位行動の科学：疫学・分子生物学から探る健康	熊谷秋三, 田中茂穂, 藤井宣晴編集	杏林書院	257p
	498/2017		
身体活動疫学を網羅した、生活習慣病・介護予防に必読の書。座位行動の生理・分子生物学を詳説し、運動によるメンタルヘルスアップについて解説。日本人の健康づくりに適した運動メニューも紹介する。			

長谷川 隆史 先生

機嫌よくいれば、だいたいのことはうまくいく。	鈴木秀子著・イラスト	かんき出版	223p
	購入準備中		
先生からの推			
心の持ち方一つで日常が変わることを、シンプルかつ深く教えてくれる一冊。「機嫌よく」あることの効用を具体例と共に説き、ネガティブな思考パターンから抜け出す方法を提案します。読むほどに心が軽くなり、自分と周囲との関係が変わる—現代人に必要な、人生の質を高める処方箋です。			
人体最強の臓器皮膚のふしぎ：最新科学でわかった万能性	梶島健治	講談社	301p
	購入準備中		
皮膚はさまざまな能力を併せ持った「スーパー臓器」です。有害な化学物質や病原体の侵入を防ぐ物理的バリアであるとともに、人体最大の免疫器官であり、無数のセンサーが埋め込まれた感覚器官です。21世紀に入ってから皮膚医学の進展は目覚ましく、毎年のように教科書を書き換えるような発見が相次いでいます。本書は、人体最強の臓器と呼ばれる皮膚の謎に、最新の科学的知見を元に迫ります。			
こうやって頭のなかを言語化する。	荒木俊哉	PHP研究所	237p
	購入準備中		
世界三大広告賞ほか国内外20以上の受賞歴！1日3分&3ステップの一瞬で思考がまとまる超シンプル習慣。言語化メソッドの決定版。電通トップコピーライターが20年かけて編みだした独自メソッドをこの1冊でマスターできる。			
スラムダンク勝利学	辻秀一	集英社インターナショナル	181p
	購入準備中		
ただ、がんばるだけでは意味がない！超ヒットバスケット漫画『スラムダンク』のなかに必勝の秘密があった。スポーツで勝つ、人生に勝つ。			
研究の育て方：ゴールとプロセスの「見える化」	近藤克則	医学書院	258p
	490.7/24		
「総合リハビリテーション」集中講座「研究入門」（2016年1月～2017年3月掲載：全15回）の書籍化。20年にわたる大学院での研究指導の経験から得た、研究のノウハウと指導のポイントをもとに、研究に関する考え方、進め方、論文の書き方など研究に必要な全体像を一冊にまとめた。			

松井 一久 先生

図鑑心理学：歴史を変えた100の話	トム・ジャクソン著；清水寛之，井上智義 監訳・訳	ニュートンプレス	139p
	140/891		
先生からの推			
心理学の入門書として紹介されている書籍ですが、運動学習にかかわりのあるトピックも含まれています。ヒトが動くためには自身の外側と内側の認識とその情報処理、感覚の受け止め方など影響します。 患者/利用者さんの心理を理解しながらリハビリテーションを行う背景となる知識が含まれます。何らかの障がいによりコミュニケーションがとりにくい方を担当する時、運動療法の指導のような状況で役立つかもしれません。			
発達障害の人が見ている世界	岩瀬利郎	アスコム	190p
	S4/22122		
“見ている世界”の違いがわかればともに生きるのが楽になる！あいまいな表現を使わない、視覚に訴える、「説明」と「予告」…など対応策も紹介！			
からだのトリビア教えます：こんなにも面白い医学の世界	中尾篤典	羊土社	85p
	S4/15992		
へーそうだったんだ！思わず誰かに教えたいくなる医学のトリビアを集めました。			
からだのトリビア教えます：こんなにも面白い医学の世界 Part2	中尾篤典	羊土社	77p
	S4/22489		
レジデントノート誌の人気連載，単行本化第2弾！「O型の人は蚊に刺されやすいって本当？」「テレビゲームで手術が上達する？」など，言われてみるとたしかに気になる医学の「トリビア」を集めました！			
マンガでわかるLGBTQ+	パレットワーク著；ケイカマンガ	講談社	175p
	S3/20796		
“友情と恋愛の「好き」の違いがわからない。”“職場で自分がハラスメントしていないか心配。”“教室での生徒の居心地をよりよくしたい。”イマサラ聞けないLGBTQ+のギモンに答える入門書！			

松林 義人 先生

他人を見下す若者たち	速水敏彦	講談社	214p
	S3/22577		
先生からの推薦文			
周囲を見渡すと、たまに他人の悪口をよく言う方をみかけませんか？他人の悪口を聞くことがストレスで悩んでいたとき、本書に出会ってかなりすっきりした記憶があります。本書にある「仮想的有能感」は時に自分に当てはまるときもあり、気付いたときは自分を見つめなおすようにしています。簡単にいうと、他者を見下すことで自分自身の感情・価値観などを維持・向上しようとしていることです。2006年発行の古い本ですが、複雑な現代においても人間関係に悩まれたとき、少し見方を変えるヒントが隠されていると思います。			
脳はなにかと言い訳する：人は幸せになるようにできていた!?	池谷裕二	新潮社	353p
	S4/13936		
人が思い込みをする理由、記憶力のよしあしを決める「7つの遺伝子」、赤ちゃんはなぜ左利きか……。私たちの脳は、こんなにもロマンと謎と驚きに満ちていた！脳をめぐるミステリーと潜在的な底力を解き明かす。			
認知症ポジティブ!：脳科学でひもとく笑顔の暮らしとケアのコツ	山口晴保	協同医書出版社	326p
	S4/22587		
介護が「認知症の人に〇〇してあげる」から、「認知症の人と〇〇する」になり、さらに「認知症の人が〇〇する」という本人主体のものへと進化している中、豊かな老後の暮らしを自ら考え、社会に貢献しながら生きがいを感じつつ、笑顔で生き生きすることを願う方々や、認知症の人を支える介護家族、そして、彼らをサポートするすべての医療・ケアスタッフ必読の書となっています。			
認知症予防：読めば納得!脳を守るライフスタイルの秘訣	山口晴保	協同医書出版社	278p
	493.75/62		

今や、むやみに認知症を恐れるのではなく、認知症を正しく理解し、予防対策や、将来認知症になったときの対策を考えておくことが大切な時代になっています。読んだらすぐに実践したくなる予防法と、健康な脳と心、からだを備え、高齢期を豊かに生き生きと過ごす術を学べる、“認知症予防”の決定版、待望の改訂です。			
高齢者の運動と行動変容	Patricia M.Burbank, Deborah Riebe 編著；竹中晃二 監訳	ブックハウス・エイチディ	222p
	493.185/54		
トランスセオレティカル・モデル(TTM)の概念からその適用の多様性を通観し、TTMを用いた高齢者の行動変容の可能性を事例を交えて紹介する。			

米澤 久幸 先生

人体の取扱説明書：生活の質が向上する、正しい体の使い方 最新版	ニュートンプレス	ニュートンプレス	175p
	S4/23739		
先生からの推			
この本は4年間の学びについて医療の分野、特に理学療法学に関する知識の概略を得ることができる良い書籍です。一般の方向けに書かれていますのでわかりやすく、また多くの図表が掲載されていますので興味深く読むことができます。 大項目の人体の名称とはたらきでは運動をするうえで必要となる身体の理解を、次の生活習慣病への対応では理学療法における疾病予防につながる知識を、感染症への対応ではこの数年来いまでも医療・福祉の分野で細心の注意を払っている感染症の理解に役立つ内容がまとめられています。 本書は理学療法士になるためのたくさんの知識、技術を身につけるうえで、自らの学修への興味を高める一助となる本であると思います。			
賢い人のとにかく伝わる説明100式	深谷百合子	かんき出版	243p
	S3/23745		
自分の言いたいことを正確かつ端的に伝えられれば、相手はきちんと耳を傾けてくれるし、こちらの意図をしっかりと把握・納得して動いてくれます。そこで、本書では説明上手になるための「自分の考えが正しく相手に伝わり、相手が納得して動いてくれるようになるためのコツ」を100個収録しました。			
統計パズル：パズルやクイズでデータ判断力をみがく	ニュートンプレス	ニュートンプレス	175p
	S4/23737		
サイコロ、コイン、トランプといった身近な題材を用いた「確率」パズルから、平均値やデータの相関関係を用いたトリックなどを扱った「統計」パズル、「組み合わせ」や「数列」を用いたパズルなど、さまざまな問題が登場します。本書をときおえるころには、情報からデータを正しく読みとき、合理的な判断ができる力が身についていることでしょう。ぜひお楽しみください。			
呼吸リハビリテーション入門：理学療法士の立場から 4版	千住秀明	神陵文庫	220p
	493.3/39		
呼吸リハビリテーションの基礎理論から技術まで、科学的根拠（EBM）に基づき簡潔な解説と多くの図・表とイラストを用いた呼吸リハビリテーションに関わる医療従事者のための入門書。			
循環・代謝(理学療法テキスト 内部障害理学療法学)	木村雅彦責任編集	中山書店	188p
	493.2/41		
本書は、卒前教育でおさえておきたい循環・代謝の生理学から病態に応じた検査（診断）・評価・治療をまとめた。 第2版では、「心腎連関」の視点から、腎疾患も取り上げ、学生が押さえておくべき心臓と腎臓の機能的関連性についてもわかりやすく解説した。			

渡邊 潤子 先生

脳卒中患者だった理学療法士が伝えたい、本当のこと	小林純也	三輪書店	288p
	493.73/129		
先生からの推			
23歳で脳卒中患者になってしまった著者が、30歳で理学療法士になりました。理学療法士の目線で、自らの障がい（感覚や運動麻痺など）をわかりやすく記されており、リハビリテーションに携わる療法士が患者さんの主観（思いなど）を知ることができる本です。			
病が語る日本史（講談社学術文庫:1886）	酒井シヅ	講談社	332p
	S4/453		
先生からの推			
先生からの推薦文女医である著者が恩師の勧めで医学史を研究され、日本人はいかに病気と闘ってきたかを綴られています。歴史上の人物の死因や遺跡から多くの寄生虫卵が見つかるなど、歴史好きならもちろん歴史通でなくても面白く読みやすいです。			
いつか、未来で：白血病患者が伝えたいこと	にゅーいん	主婦と生活社	191p
	S9/22488		
先生からの推			
NHK「目撃!にっぽん」などメディアで話題になった5歳から闘病中のYouTubeバーの著者が、当事者目線で感じたことなどを語っています。家族との対談やインタビューも収録されており、リハビリテーションに携わる立場からどのような支え方ができるか一緒に考えてみる機会になると良いと思います。			
言葉で治療する	鎌田実	朝日新聞出版	193p
	S4/22539		
医療者の言葉しだいで、治療の日々が天国にも地獄になる。衝撃の医療現場を紹介しながら、心と体が立ち直っていく言葉を具体的に提案する。			
リハビリの夜(シリーズケアをひらく)	熊谷晋一郎	医学書院	255p
	916/89		
まなざされ、見捨てられた私のカラダを拾ってくれたのは、夜の闇と冷たい床、そして敗北の官能だった…。脳性まひ当事者にして現役の小児科医である著者が、みずからのリハビリ体験を全身で語り尽くす。			

